

人とのつながりを大切にし 地域の伝統を受け継ぐ

佐藤 吉訓さん（36歳）

〓 衣川区下大森 〓



子どもたちと共に旧衣川小学校大森分校の教室で稽古に励む

3月に入ってもいまだ雪深い旧衣川小学校大森分校。大森神楽保存会に所属する佐藤吉訓さんは、分校のそばに生まれ育った。現在、同保存会は、分校の講堂や教室を稽古場としている。

一関市山谷の三輪流の流れを継承する大森神楽。昭和45年7月、分校の教諭であった佐々木久雄（直木賞作家・三好京三）氏と、当時の教育長で、南股に伝わる大原神楽の師匠、小坂盛雄氏が児童に伝授したのが始まり。学校教育の一環として、児童全員に伝えられてきた。地元生まれ育った吉訓さんは、母が分校の用務員として勤めていたこともあり、迷うことなく、入学時から積極的に神楽習得に取り組んだ。



さとう・よしのり◎昭和51年衣川区下大森生まれ。メフレ(株)管理部部長。大森神楽保存会では事務局を務める。妻と長女、長男、二女、父、母、祖母の8人家族

平成10年3月、分校が閉校となり、新たな形として保存会を設立。南部神楽の一団体として活動している。「ことは神楽を始めて30年。節目の年です」と語る吉訓さんは、設立当初から中心としての役割を担う。

毎年2月の「ころもがわ神楽まつり」をはじめ、市内のみならず県内外の発表会や大会にも出演。イベントなどの依頼も多く、年間30回ほどの公演をこなす。小学校での指導や家族と共に慰問も行い、休日には神楽一色の日々が続く。「人とのつながりを大切に、地域に残されてきた伝統を絶やしたくない」。仲間への感謝の気持ちと故郷への思いを胸に、これからも神楽を舞い続ける。

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 特集 家庭や地域の防災を見直そう
- 8 狂犬病予防集合注射を実施します
- 10 第13回 奥州前沢劇場「飛べ！マエサワクジラ」グラフ
第29回 奥州胆沢劇場「せんぼく街道幻想」グラフ
- 12 共同仮置場の地元説明会が一巡
4月から汚水処理施設使用料を変更
- 13 結 - ゆい - ～30の地区振興会による協働のまちづくり実践事例～「羽田地区振興会」
- 14 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPOの輪「衣川区スノーバスターズ」
- 20 子そだて広場
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 21 消費生活相談Q&A
わが家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介「水沢高校
ウエイトリフティング部」
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産
「庭田植（農はだてのつど
い）」（胆沢区）

〈今月の表紙〉



城下町水沢に春の訪れを告げる「第12回くくり雛まつり」が、2月27日～3月3日に開催されました。市街地を中心に14会場に展示されたほか、くくり雛作り体験コーナーも開設。多くの来場者を魅了しました。写真は3月2日、メイン会場メイブルの様子。母と共に訪れた伊藤望さんは「初めて見に来ました。とてもかわいらしく、たくさん種類があって楽しい」と朗らかな笑顔を見せました。